

令和7年度活動報告書				
活動指標及び活動実績	産学官連携協議会	活動内容		
		計画	実績	
活動指標及び活動実績	産学官連携協議会	運営事業	定時総会	・6月25日(Web会議(農林水産省会議室))
			臨時総会	・2月12日(ハイブリッド開催(大崎プライムコアホール))
			理事会	・7月31日(ハイブリッド開催(農水省内会議室)) ・10月28日(ハイブリッド開催(農水省内会議室)) ・1月29日(ハイブリッド開催(農水省内会議室)) ・3月(メール開催)(予定)
			運営会議	・5月23日(ハイブリッド開催(農水省内会議室)) ・10月27日(リアル開催)
			新事業創出会議	・3月中旬(リアル開催)(予定)
	普及啓発事業	Webサイトの運営	・Webサイトについて、会員名簿や研究開発プラットフォーム一覧、総会等会議資料の掲載を行った。	
		メールマガジン発行	・国内向けに76回発行(Vol.413~454,特別号34件,令和8年1月27日現在)し、イベント情報、農林水産関連施策の情報等を会員に周知。	
		協議会活動周知	・産学連携室が登壇・参加した会議・打合せ等で79回事業を説明。 ・経済産業省との共催の農林水産・食品分野オープンイノベーションチャレンジピッチ(1月20日)の開催を農水省からプレスリリース。 ・成果報告会&ポスターセッション(2月12日)の開催を農水省からプレスリリース。 ・その他協議会イベントを、省内他局、JATAFF、生物系特定産業技術研究支援センター、JA全中、地方経産局、大手企業役員(会員企業)、報道関係などに周知。	
		展示会等への出展	・けいはんな万博Well-Being Festival(6月13-14日@京都) ・大学見本市(8月20-21日@東京) ・FOOD展(10月15-17日@東京) ・NIPPON FOOD SHIFT FES.東京 2025(11月8-9日@東京) ・JFフードサービスパートナーズ商談会2024(11月20日@東京) ・アグリビジネス創出フェア2025(11月26-28日@東京)	
		成果報告会	・令和8年2月12日にプラットフォームの研究成果について報道関係者、大使館会員等に向けた成果報告会を現地開催(ポスターセッションと併催)。優れた成果を創出している研究開発プラットフォームや、積極的な取組により今後の成果が期待される研究開発プラットフォームを表彰。	

令和7年度活動報告書

		計画	実績	
活動指標及び活動実績	産学官連携協議会 (続き)	連携推進事業	<p>セミナー、ワークショップの開催</p> <p>アグリビジネス創出フェア メインステージセミナー「農業現場における技術の社会実装と消費者の求める価値提供を語る！～技術事例や今後の市場の視点を交えて～」 (11月26日、リアル開催、約60名) ・農業現場への技術導入から消費者提供価値まで具体事例を交えながら、技術開発、生産、流通の第一線で活躍されている方々がパネルディスカッション形式で議論。 セミナー「スタートアップ、VCから見る農林水産業の可能性と共創のカタチ」 (8月4日、オンライン開催、参加者181名) 登壇者：農林水産省 農林水産技術会議事務局 産学連携室長、農林水産省 農林水産技術会議事務局 イノベーション戦略室、Beyond Next Ventures Partner、サグリ株式会社 代表取締役CEO</p> <p>・第1回新事業創出会議(10月27日、リアル開催、17名) 「コメ栽培の未来を語る！生産者×技術者ディスカッションイベント」を実施。技術者と生産者との連携促進を目的とした。 ・第2回新事業創出会議(3月上旬、リアル開催)(予定) 『稼げる農業』を学ぶ！生産者×研究者連携促進イベント』を実施予定。</p> <p>セミナー「知的財産・契約の課題解決セミナー」(1月14日、ハイブリッド開催、40名) ・産学官連携における知的財産・契約の注意点を弁護士の方より講演いただき、会員、プラットフォームの抱える課題に対するワークショップを実施。</p> <p>農林水産・食品分野オープンイノベーションチャレンジピッチ(1月20日、ハイブリッド開催、210名) ・農林水産省、経済産業省関東経済産業局、中小機構の共催。 ・「知」の集積と活用からの紹介で、キュービー株式会社、TOPPAN株式会社、日油株式会社、三菱ケミカル株式会社、株式会社吉野家ホールディングス、レンゴー株式会社がニーズを発信。年度内を目安にマッチング結果を確認する予定。</p> <p>MEET UP CHUBU(4月24日、ハイブリッド開催、148名) ・農林水産省、経済産業省中部経済産業局、中部経済連合会との共催。 ・協議会会員が登壇し、アグリテック分野での連携を希望する機関同士のマッチングを実施。</p> <p>「関西共創の森」Extra DAYS(2月2日、ハイブリッド開催、62名) ・農林水産省、経済産業省近畿経済産業局、京都大学、京都信用金庫との共催。 ・アクアボニックスの社会実装をテーマに、大手企業、スタートアップが参加し、グループディスカッション形式で議論。</p> <p>SIP連携イベント(10月1日(125名)、9日(93名)、ハイブリッド開催) ・内閣府との共催。 ・SIPで開発された「豊かな食が提供される持続可能なフードチェーンの構築」の各研究成果に対し、社会実装に向けた連携希望先とのマッチングイベントを実施。</p> <p>NEDO連携イベント(2月4日、ハイブリッド開催、157名) ・NEDOとの共催。 ・NEDOが主催する衛星データ×農林水産業の技術開発コンテスト「NEDO Challenge, Satellite Data」と連携し、衛星データ活用につながるマッチングを実施。</p> <p>フードテック官民協議会連携イベント ・食品保存技術をテーマにスタートアップ4社が登壇するマッチングイベント(7月18日、現地開催、66名) ・アグリフード×ロボティクスをテーマにスタートアップ4社が登壇するマッチングイベント(9月24日、現地開催、23名) 大使館連携イベント(3月下旬、リアル開催)(予定)</p>	
			<p>ホスターセッションの開催</p> <p>・ポスターセッションを開催(2月12日)。64名のポスターを掲載(成果報告会と併催)。 ・特設Webサイト(1月9日～2月28日公開)にポスターデータや動画等の説明資料を掲載。</p>	
			<p>研究開発プラットフォームの届出受付</p> <p>令和7年度は4件の設立届出、9件の解散届出を受理(プラットフォーム数173件(令和8年1月30日時点))</p>	
			<p>外部との連携</p> <p>関東経済産業局、中部経済産業局、近畿経済産業局、内閣府、NEDO、大使館等の外部機関と連携してイベントを開催。</p>	
			<p>会員からの相談受付等</p> <p>会員等から研究開発プラットフォームとコンタクトをとりたい、会員企業とのマッチング希望など、全2件の問い合わせに対応(令和8年2月26日現在)。</p>	
			<p>研究開発促進事業</p> <p>研究資金の紹介</p> <p>農林水産省及び関係省庁の研究開発予算をメールマガジン、Webサイト等により会員へ周知。</p>	
				議題等
			<p>運営会議 (5月23日)</p>	①定時総会開催概要、②次期協議会の構想検討、③令和7年度活動計画
			<p>定時総会 (6月25日)</p>	①令和6年度活動報告、②今後の協議会の在り方、③令和7年度活動計画
			<p>理事会 (7月31日)</p>	①社会実装伴走支援候補者選定、②第3期構想議論
			<p>理事会 (10月28日)</p>	①各種イベントの実施状況報告、②社会実装伴走支援取組状況、③第3期構想議論
			<p>理事会 (1月29日)</p>	①第3期基本方針について、②社会実装伴走支援・各種イベントについて、③評価委員会資料の報告
			<p>臨時総会 (2月12日)</p>	①第3期基本方針(案)の概要
			<p>理事会 (3月) (予定)</p>	①令和7年度評価委員会の結果、第3期基本方針等について(メール開催)
<p>研究開発プラットフォーム等へのヒアリング</p>	研究開発プラットフォームへのヒアリングを61件実施(R8年2月26日時点)			
<p>会員アンケート</p>	各イベントで事後アンケートを実施			

「知」の集積と活用 産学官連携協議会に対するレビュー				評価委員会の評価
項目	事務局の自己評価	評価に関する説明		
会員のニーズを捉えた運営活動がなされているか	B	<ul style="list-style-type: none"> 協議会の活動を、より会員のニーズに即した内容とするため、協議会会員に向けてアンケート(205名回答)やヒアリング(61件)を実施し、プラットフォーム活動における課題や協議会への要望などの意見を収集した。 会員より「オープンイノベーションにおける契約の仕方が分からない」、「研究開発プラットフォームの活動で生み出された知財の取扱いが分からない」等の意見があり、これを踏まえて、特許庁、弁護士事務所との連携イベントを開催し、知財や契約の面での課題解決に資するセミナーを行った。 また、社会実装伴走支援事業では、海外展開や資金調達を志向する会員に対し、国内外の市場動向や資金調達先に関する情報提供を行った。あわせて、協議会員の技術開発によって創出された成果物の市場における必要性を把握するため、地方公設試、食品メーカー、生産者等へのヒアリングを実施した。 また、充実して欲しい取組として「事業化・社会実装に向けた支援」および「オンライン上でのニーズ・シーズマッチング」という意見があり、次年度の事業執行でも、これらの点の充実化を図る検討を進めている。 		
活動が研究開発プラットフォームの活動の充実を促す効果を発揮しているか	A	<ul style="list-style-type: none"> 研究開発プラットフォーム等を対象とした「社会実装伴走支援(事業化等のサポート)」を実施し、対象プラットフォームへのヒアリングを通じて、個々の課題を抽出し、ビジネスモデルの検討や市場性の調査、マッチング支援などの伴走支援を実施した。 今年度は新たに、専門的なバックグラウンドを有するアクセラレーターも支援に加わり、支援体制を強化した。 また、過去の伴走支援先への継続的なフォローアップを強化することで、単発の支援にとどまらない一連の支援体制を構築した。 昨年に引き続き、アグリビジネス創出フェア、JFフードサービスパートナーズ商談会、FOOD展、NIPPON FOOD SHIFT FES.、大学見本市に出展するとともに、今年度は新たに、けいはんな万博、YOXOフェスへの出展も行った。出展したPFにおいては、活動の周知や連携先の獲得に意欲的に取組むところが多く、商談に繋がった事例もあった。 成果報告会(2月12日開催)では昨年度に引き続き優秀な成果を残しているPFや、これからの成果が期待できるPFの表彰(オープンイノベーション大賞、奨励賞)を実施した。今後とも優良事例を表彰し、モデルケースを増やしていくとともに、失敗事例についてもPFや会員間で共有し今後の取組の参考としてもらうことを検討する。 		
会員及びプラットフォームの連携を促進しているか	A	<ul style="list-style-type: none"> 新たな交流機会を創出するため、他の機関(NEDO、内閣府、中部経済産業局、近畿経済産業局)との連携による新規のイベントを実施し、会員、プラットフォームの社会実装に向けた協業に繋げる取組を積極的に行った。また、産業領域を絞ったイベントを開催して、密なネットワーキングを行い、分野は様々だが、同じ方向性を持つ参加者の連携促進に取り組んだ。 他省庁や民間の協議会や企業・金融機関等と関係を構築し、次年度以降のイベント検討や相互の会員に向けた頻繁な情報交換を実施した。 関東経済産業局、中小機構との連携イベント(オープンイノベーションチャレンジピッチ)は昨年度に引き続き現地とオンラインのハイブリッド形式で開催した。本イベントでは大手企業6社が自社にニーズを発表し、大手企業、中小中堅企業、スタートアップ、VC等から210名が参加し、現地またはオンラインシステム上での連携を図った。 ポスターセッションでは、64件(昨年68件)のポスター展示があり、157名(昨年約150名)が来場した。また、ポスターセッションの特設サイト上では、62点(昨年72件)のポスターを掲載した。有用な技術シーズを有するこれまで参加のなかったスタートアップ等をポスターセッションに誘致したことで、各プラットフォームとの議論や技術活用の話が進んだ。 		
評価委員会の所見				

※評価については、A「十分」、B「普通」、C「不十分」とする。